

これまでに海生研では室内実験によって、30種類以上の魚の好む水温を調べてきました。これらの結果の一部は、海の豆知識 Vol.1～4でも紹介されています。しかし、室内実験では扱える魚の大きさには限度があり、実際に漁獲される大きさ、例えばブリのような体長70cmもある大型魚を扱うことが困難でした。

そこで大型魚の好む水温を調べるために、発電所放水口前面の温排水拡散域内に生簀を設置して、野外実験を行いました。直径12m、深さ8～9mの円形生簀を、海面から3～4m程度の厚さで温排水が流れる様な地点に設置しました。遊泳した水深とその水温を記録する機器を装着した魚を生簀内に入れ、魚が選ぶ水温を追跡しました。この様な実験を水温の異なる時期に行い、魚の好む温度を調べました。

次回、ブリの結果をお見せしましょう。

(事務局研究調査グループ 山田 裕)



発電所放水口前面に設置した生簀 (左)と
魚の背中に装着した測定機器 (赤矢印の先; 右)

海生研は、発電所の取放水等が海の環境や生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、昭和50年に財団法人として設立されました。

平成24年4月からは公益財団法人に移行しました。科学的手法に基づき、エネルギー産業等における沿岸域利用の適正化と、沿岸海域等の自然環境、水産資源、漁場環境の維持・保全に寄与することを目的として、これまで以上に長期的な展望を踏まえた計画的な学術調査研究を推進し、成果を公表してまいります。

海の豆知識 第55号

平成25年4月 発行

発行所

公益財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町347 藤和江戸川橋ビル7階 ☎(03) 5225-1161
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎(0470) 68-5111
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎(0257) 24-8300

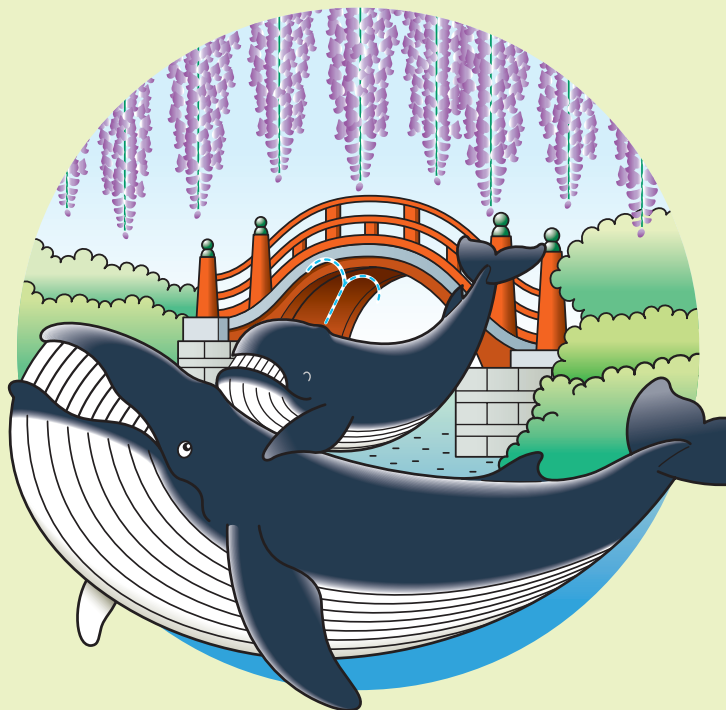
海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識 Vol.55

★★★ 魚のことわざ ★★★



公益財団法人
海洋生物環境研究所

魚のことわざ

〈その51〉

——クジラ——

海とその生物にまつわる諺や格言についてお話ししましょう。

今回は、クジラ(鯨、whale)です。クジラ目に属する水生の哺乳類の総称で、その形態からハクジラとヒゲクジラに大別され、世界で80数種いると言われています。ハクジラの中でも比較的小型の種類は、イルカと呼ばれます。

クジラの名前の由来は古く、古事記に「久治良」、また、万葉集には「鯨魚」、「不知魚」などという白黒色の得体の知れない大きな生き物を指す名が登場しています。

クジラの語源は、弔事等で用いる鯨幕の元になったように、体色に由来する説の他に、口が広いので「口広」が訛ったものとするものもあります。漢字では魚偏に大きな意味を表す「京」を付け、「鯨」と書きます。

クジラの先祖は、かつて陸上で生活していたとされていますが、その後水中生活に適応し、優れた体温調節、潜水、摂食、授乳、睡眠などの能力を有する生き物に進化しました。

日本でのクジラの利用は、食品はもちろん、工業品、工芸品、医薬品など多方面に及んできました。特に、鯨肉は江戸時代にも庶民の間ではたいへん人気がありました。

水無月や鯛はあれども塩くじら 松尾芭蕉
大名も切り売りを買う塩鯨 (俳風柳多留)



「一頭の鯨で七浦賑わう」

一頭の鯨は七つの集落を潤おすこと。大きい獲物は巨利と経済的波及効果をもたらす。



「鯨も魚、白魚も魚」

形の大小はあっても仲間に変わりはない。外見で軽重を判断したり、差別をしてはならないという教え。「鯨と鯛」と表面は似ているが、意味は正反対。四つ足禁制の時代、クジラを魚として抵抗なく食べたのであろう。



「鯨の喉にも骨がたつ」

大きな鯨でも小さい魚の骨が刺さり苦しむということ。絶対に安全ということは有り得ないことのたとえ。



「鯨飲馬食」

多量の飲食を一度にすること。鯨が水を飲むように大酒を飲み、馬が餌を食むようにたくさんのお食事を食べることのたとえ。